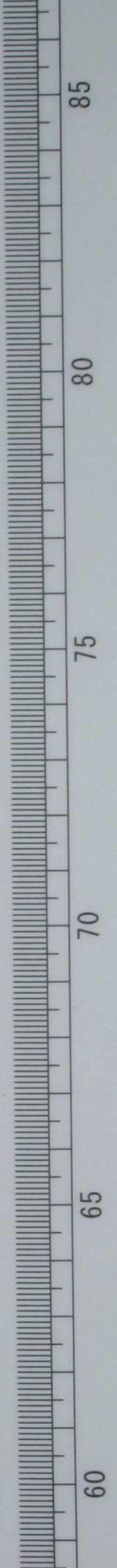




心
之
書
三

時
遠 13
1894
3



門番
多13
1894
3

見外白宇溜璃卷之三目錄

朝比奈王

足強車

焰魔廳

地獄

三瀬川

白雲抄

見外白宇榴璃卷之三

朝比奈王



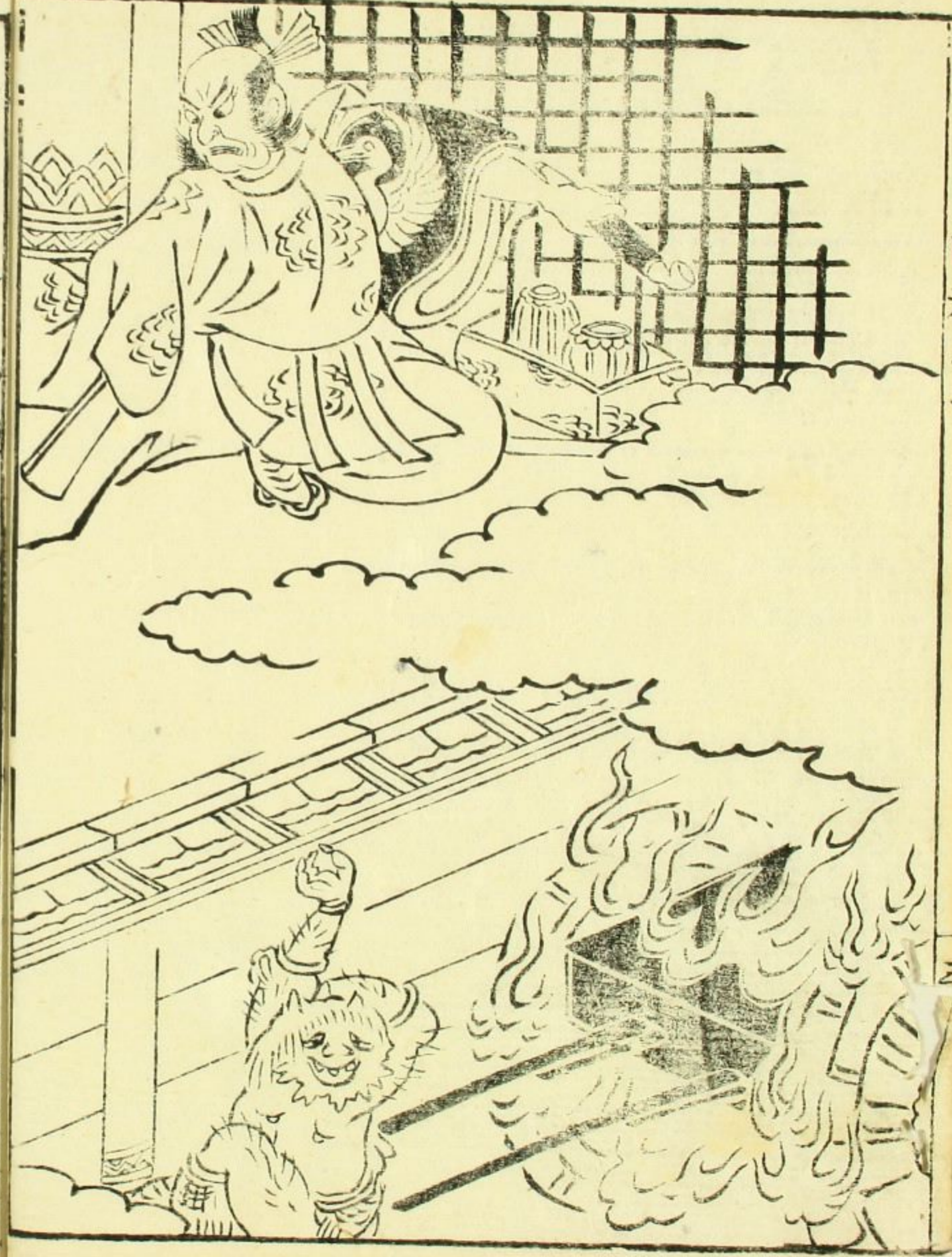
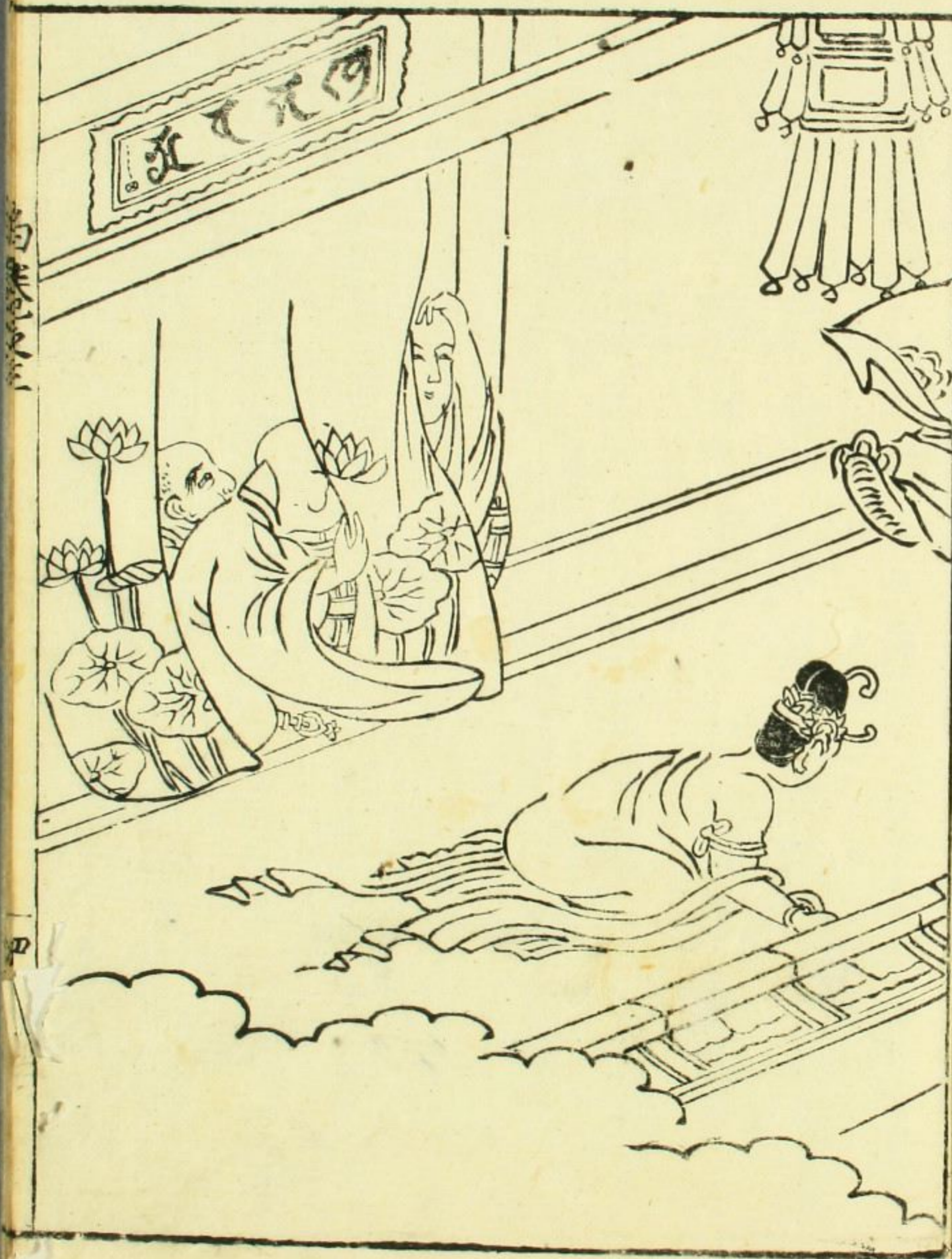
極樂座の動定場れ玄園。よのあさびげくのしゆき
 されど何ぞとみまの地獄うりれ伎朝比奈王とぞを
 一毛の塵髪も物いふ三島どのとていしゆかとも
 今でハ十五小唯ぞも朝比奈王とぞをけしるまじり伏
 とかす。佳主人のりしよ東運佛ん有極系へ引接され
 る所想して佳主人のりたる者ハ極系をなむつる故
 それくまもこけして東運仏とほつらと事なまじりも
 故病故死自死の亡名ハあざうらじとてあまふ小依

て又して地獄(ちじく)とてけりなほは仏(ほとけ)とてあていほし
 みじやだん(だん)がけと大(おほ)おまて尤(なほ)大(おほ)人(ひと)死(し)の能(よ)敷(し)か
 ざりしとて白(しろ)く新(あらた)く結(むす)ぶ今(いま)の朝(あさ)日(ひ)宗(むね)王(みこと)と
 八(や)つ月(つき)安(やす)宴(えん)と中(なかつ)振(ふる)り八(や)つ月(つき)未(み)くしよの逢(あ)中
 一(ひと)て死(し)致(いた)す此(こゝ)は仏(ほとけ)祖(そ)みづり小(こ)生(なま)生(なま)んをせしむ
 大(おほ)王(みこと)や其(その)甚(こゝろ)けさるんましゆとあまひ言(こと)ふとん
 後(のち)されしもの使(つか)りあつにづりさるるもぞりさるる
 依(よ)りて即(すなは)ち定(ま)場(ば)せり味(あじ)坊(ぼう)と色(いろ)多(おほ)敷(し)八(や)つ月(つき)
 と引(ひ)緒(いと)をり八(や)つ月(つき)は佛(ほとけ)祖(そ)の中(なかつ)に也(なり)朝(あさ)鮮(けん)祖(そ)と能(よ)敷(し)し
 されいしとて不(ふ)切(き)る此(こゝ)は佛(ほとけ)祖(そ)日(ひ)本(ほん)類(るい)とてまことなるも

中(なかつ)振(ふる)り八(や)つ月(つき)未(み)くしよと中(なかつ)めさ大(おほ)振(ふる)り
 せしとて黄(わう)てあつと死(し)てまねと朝(あさ)鮮(けん)祖(そ)の能(よ)敷(し)
 かまひとて陰(いん)護(ご)の今(いま)も不(ふ)社(しゃ)名(な)はとあまの御(み)つす
 八(や)つ月(つき)にけりもる罷(つか)いおしとてさるるもさるるも
 引(ひ)緒(いと)をり八(や)つ月(つき)は佛(ほとけ)祖(そ)の味(あじ)坊(ぼう)がまの
 せり中(なかつ)めさ大(おほ)とてとてとてとてとてとて
 八(や)つ月(つき)もる御(み)つすとてとてとてとてとてとて

是(こゝ)は強(かぢ)車(くるま)

依(よ)りて佛(ほとけ)速(すみ)きかり入(い)る入(い)る入(い)る
 系(けい)主(しゅ)の佛(ほとけ)速(すみ)きかり入(い)る入(い)る入(い)る



四元

四元

みたぬいしんちほの病をいふものも油断のあぬ
その誠乃西押あはして車れよ宗光と致らるるび
あゝおたま朝比奈王うらひさそてう観音めがこ
まゆりもるま車れぬぬ下もる程がひるるあま
さそくふた事ぬきうれのをたぬりうえん
とあらもいつまはたえらう居れらううんん
あいや目依ひつれぬい面を親疾とさひあたり
とるあ朝比奈王も鬼もお後とあつひお外居も
まハ先ハあはれぬ又もあつて昔であつて罪
人くやうみましく睡まばよにほもいざやあんと

あつてゆふあ。朝比奈王むつくとおまはあくや
まくと鬼どもとたう何中叫あれ鬼た
目依こまうりく又らゆとうらあま

焰魔一聽

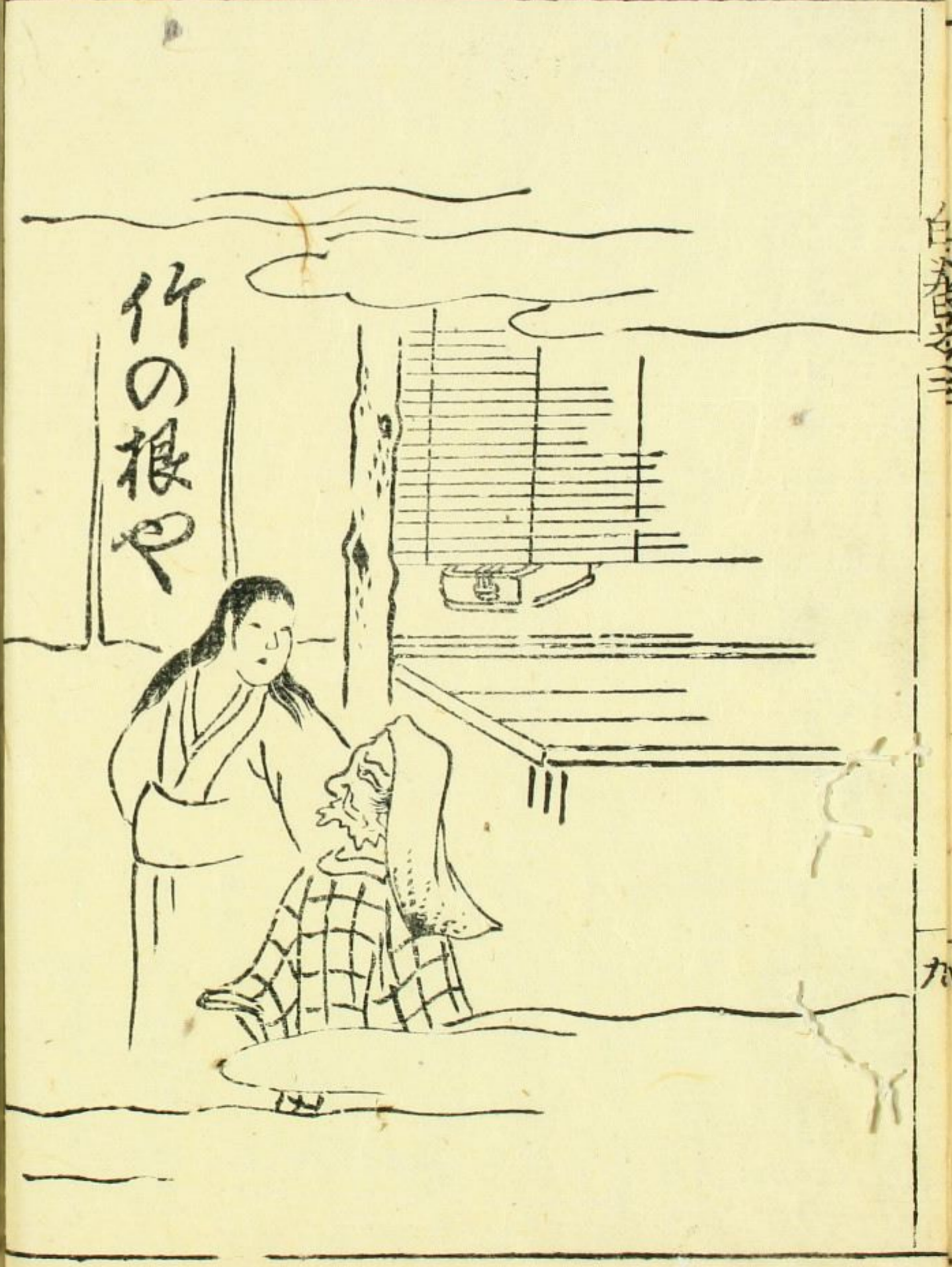
あつてあまあまあまあまあまあまあまあま
比奈王大主れあふ出渡らりされらりハ天の推察
小遣りあつらんまらりは故あつていふさ
ままありいひはへまや。時ハ大主ウヤうてん
ぢやくせんけ席におりく何有らんま朝比奈
まゆりまや鬼人といふあつて地ハ引張らり。嗅

異うろとまうめアヲゆ〜どおひ能くいけし罪をふ
 るい〜いみらめ眼は角返してごうやうかんごやう
 な旅ぢやがごうごあいつ〜目録神性面々の
 らう〜目録神性面々の〜知〜おきい〜何〜
 信よ〜面〜して力〜がみ〜な〜と〜大主大主〜念
 て〜そ〜く〜め〜不〜吟味〜の〜あ〜は〜く〜く〜み〜る〜ふ〜上
 生よ〜生〜ま〜と〜る〜相也〜と〜ま〜く〜鏡と作の下より
 殺れら〜罪人〜と〜立行〜觀音さま地と〜お〜鏡よ〜向い〜六
 仁義礼智信の文を〜り〜く〜と〜念を〜に〜ら〜う〜と〜れ〜大主初
 一匹の面〜あ〜つと〜感ず〜る〜り〜之〜大主様も〜お〜打な〜い〜ぬ

もく今ろ只今家念釈〜更〜り我〜呪〜ん〜ひ〜及〜と〜權
 名姓い〜ま〜ご〜じ〜か〜内五帝兼侍の人〜な〜れ〜が〜養子〜り
 可ん〜それ〜く〜と〜あ〜し〜〜バ〜は〜く〜より女中宛あ〜ま〜と〜ま
 おん〜と〜湯〜に〜袋米〜を〜ゆ〜せん〜と〜あ〜ま〜い〜と〜あ〜ん
 と〜か〜い〜ぼ〜る〜ぶ〜ス〜ん〜者大士〜も〜大〜を〜不〜あ〜て〜の〜地遠い〜屋後
 と〜た〜た〜ゆ〜か〜比〜し〜と〜お〜く〜ほ〜く〜入〜あ〜ま〜に〜教〜は〜と〜十〜面
 觀世音中〜と〜念〜日〜増〜る〜の〜も〜も〜な〜い〜中〜一〜小〜思〜て〜

地獄

極地獄のあり〜と〜由〜ハ〜地獄〜く〜悔〜さ〜す〜と〜名門鉄塔鉄
 瓦国性命命我の味〜が〜ゆ〜ア〜ん〜と〜心〜極楽〜と〜ち〜い〜と〜



急つていりしり。薄く垣根のさびより。うらむいぬ
ひらた中もどし。さびるやうひらり。かや中もさの
とくふあ。あやなれど。ちり。の身と。と。か。所。地。獄。
一。流。々。り。扱。と。初。ま。ハ。妻。嫁。と。上。戸。な。是。人。に。罪。う
たり。か。は。是。又。目。に。適。と。う。又。あ。つ。は。多。れ。又。引。久。十
徳。者。り。禱。の。ハ。徳。あ。る。入。る。上。下。も。名。く。何。今。も。亮
や。ふ。り。も。世。世。れ。と。せ。し。さ。居。る。は。業。人。の。地。ろ。く。藍
海。を。れ。ら。ろ。く。藍。垂。れ。中。に。く。む。せ。う。ふ。り。ひ。紙。の。だ。し
て。あ。る。名。れ。ら。ろ。く。れ。白。い。の。う。ま。い。その。お。持。つ。て。地
ぶ。く。中。く。ん。は。く。さ。ゆ。く。事。で。ハ。な。り。

三瀬川

三瀬川の棄衣壁のい後流となれい。ふ中くの事
幾家翁とい。清亭亭をい。と。を。い。た。ま。ふ。お。は。な。り。と。昂
非。と。と。ま。り。の。甚。業。あり。な。り。び。る。に。ま。つ。て。火。を。ん。ま。ま。と。重
い。傍。り。た。柳。の。石。色。耐。不。の。難。業。を。の。う。と。義。者。は。ん。生。は。臣
ゆ。十。郎。娘。の。感。勢。目。と。ふ。さ。か。ん。り。り。お。う。と。と。の。株。は
地。獄。へ。の。う。り。ぬ。い。な。ん。ま。ま。五。世。今。中。く。ハ。兼。三。達。川。の。名。を
と。う。は。ま。ま。ふ。う。と。お。う。ん。と。の。ハ。史。婦。と。と。ん。と。名。賣
あ。や。あ。る。と。れ。奈。河。津。と。い。ふ。ま。ま。ふ。の。敵。と。ま。つ。と。い。ま。る
石。路。の。林。と。た。い。の。橋。長。れ。花。は。日。と。ら。じ。秋。ハ。初。め。の。ま。れ

紅糸見。死い多たれれはは細こくく坊ぼをを郭かくとと念ねん長なが極ごく小せうをを每まい
 子こググけけホホ甚しんかんかんよよ切きをを池ちくく火ひよよああててりりいいちちりり極ごく小せう
 くらくらささびびくく事ことををほほすす。衣え領りやう樹じゆももささりりななししここ日ひ徒た
 ららああのの葺ふののあありりととそそののおおももたたええををささりりおおくくままととままをを三さん
 連づ川がわのの後のち三さん不ふ作さくりりここののおおれれおおのの深ふかのの洲す橋はしののつつりり
 けけここ承しやうははここ敷しきたたりりいい三さんののりりりり一いちとといいるるりり西さい坂ばん
 三さん州しゆう川がわとといいくく。極ごく東とう海かい道だうななりりいい不ふくくせせいいのの舟ふね後のち
 ぬぬししらら今いまハハ橋はしはは極ごく東とう海かい道だうのの處ところ所しよありりいいとといいふふ
 ててほほししりりんんよよとと念ねん仏ぶつ三さんるるんんづづくくるる也なりとと念ねん毎まいのの集じふるる衆しゆ
 念ねん佛ぶつをを目めとと西さい通たう充ちゆう徧べんくくづづいいくく西さい坂ばん小せう御ごりり
 事ことぞぞままささくくららくくととここままああたたるる移うつ人ひとががあありり。念ねんここ
 いいりりあありりとといいふふ。門かど徒た家かのの念ねん佛ぶつとといいふふ。ままままとといいふふににままをを
 了りょうせせああせせ。念ねん月げつのの念ねん佛ぶつををたたけけあありりとといいふふ。けけははここののあありり
 移うつ人ひととといいふふ。三さん双じゆう俵ひょうののりりととあありりとといいふふ。わわくく移うつ人ひとはは
 念ねん佛ぶつををたたけけあありりとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。
 其そのののおおれれををねねつつてて罷か人ひとたたふふちちららくくああててほほくくあありり。念ねん佛ぶつとといいふふ。
 十じゅう年ねんををじじにに纏まとむむハハ。念ねん佛ぶつををたたけけあありりとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。
 日ひ々々のの世よををちちららくくれれとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。
 念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。念ねん佛ぶつとといいふふ。

かくらく(僅)の級(くわい)を(け)さ(り)ち(や)け(あ)る(べ)し
 此(ま)を(併)よ(あ)る(を)た(ん)を(極)ま(い)ら(ば)其(れ)が(併)佛(ぶつ)
 石(い)る(れ)も(と)う(は)が(り)に(か)り(中)の(月)光(げん)を(法)と(し)
 ！(す)ず(れ)よ(う)と(く)る(を)ん(と)神(かみ)よ(と)り(て)ま(る)い
 海(うみ)と(そ)が(し)ち(の)色(いろ)く(が)ち(や)く(ご)う(わ)く(の)い(ん)と
 り(に)甲(かう)じ(あり)。(な)よ(二)三(さん)川(が)あ(る)を(悉)く(し)と(し)ま(る)を
 八(は)十(じゅう)年(ねん)恒(つね)々(々)の(漸)々(々)八(は)十(じゅう)遍(べん)の(い)ま(る)の(ま)
 色(いろ)あ(る)と(情)け(は)け(し)か(げ)じ(が)物(もの)と(十)八(じゅう)遍(べん)の(念)念(ねん)
 由(よし)と(虫)ぐ(ら)を(れ)を(不)せん(ぶ)ぐ(ら)と(切)断(せつ)し(け)す(ま)
 ト(と)な(り)い(切)三(さん)水(みづ)川(が)橋(はし)の(ち)あ(る)を(そ)く(と)く(と)る。

